

1. オリエンテーション、導入——聖書と聖書学・考古学
2. 旧約聖書1——宗教史的背景
3. 旧約聖書2——創造
4. 旧約聖書3——契約
5. 旧約聖書4——王権
6. 旧約聖書5——預言 5/27
7. 旧約聖書6——知恵 6/3
8. 新約聖書1——新約聖書学 6/10
9. 新約聖書2——神の国 6/17
10. 新約聖書3——イエスの譬え 6/24
11. 新約聖書4——富 7/1
12. 新約聖書5——国家 7/8
13. 新約聖書6——グノーシス
14. 受講者による研究発表1 7/15
15. 受講者による研究発表2 7/22
16. フィードバック

<前回>契約

・旧約聖書の「創世記」：神話と伝説、そして歴史。

神話と歴史とは区別されねばならないが、しかし、無関係ではない。

天地創造と人間創造：1章

エデン神話：2-3章、アダムの物語：4-5章

ノアの洪水神話：6-9章 諸民族の系図：10-11章

↓

族長物語：12-50章

(1) 天地創造からノアの洪水へ

<創世記1章>

1. 伝統的な世界観の主要な類型の一つ

三層構造世界観：天/地/地下、神(々)の英雄的行為による天地創造

混沌と秩序の二項図式 → 水のメタファー：洪水神話

宇宙論的宗教(星神信仰)と占星術の連関。

2. カオスの脅威と創造の反復→創世記1章(創造神話)と6章(ノアの物語)との構造的類似性

(2) ノアの子孫たちとイスラエルの族長

3. 申命記、クライネ・クレド。

(3) 聖書の根本思想としての「契約」とその射程

5. 「神-人間(共同体・民族→個人)」の関係=契約関係、人格関係における神(人格神)

・契約から創造へ：契約をめぐる思想は、旧約聖書の思想的核心を構成するものであり、創造論も契約思想に基づくものとして解釈することができる(フォン・ラート)。

旧約聖書の記述の順序で言えば、創造から契約へと物語は展開しているが、思想形成の順序では、契約から創造への展開を指摘することができる(聖書学の成果)。

6. 契約の構造：「約束-信頼」 → 責任性・違反への罰則・人格的な関係

アブラハムと神(主=ヤハウェ)との契約(アブラハム契約)は、旧約聖書の契約思想の原型と言えるものであるが、それは次のような構造になっている。

約束：子孫の数の増加と土地の取得

→

神

アブラハム(民族の父→古代イスラエル民族)

←

信頼

7. 古代イスラエル宗教は典型的な民族宗教である。

神は民族の反映を約束し、民族はこの神への信頼において統一される。神と人間との

じことをしているのだ。9 今は彼らの声に従いなさい。ただし、彼らにはっきり警告し、彼らの上に君臨する王の権能を教えておきなさい。」

8:20 我々もまた、他のすべての国民と同じようになり、王が裁きを行い、王が陣頭に立って進み、我々の戦いをたたかうのです。」21 サムエルは民の言葉をことごとく聞き、主の耳に入れた。22 主はサムエルに言われた。「彼らの声に従い、彼らに王を立てなさい。」サムエルはイスラエルの人々に言った。「それぞれ、自分の町に帰りなさい。」

3. 調停者としての王

cf. 古代オリエントの王権イデオロギー：絶対権力者としての王

地上における神の代理、神の子、あるいは神的な存在 → 近代の王権神授説

4. 王自身が一人の人間であり、罪人である。

ダビデの罪（ウリヤの妻バト・シェバを奪い妻とした）と預言者ナタンによる糾弾。

<詩編 51> 51:1 【指揮者によって。賛歌。ダビデの詩。2 ダビデがバト・シェバと通じたので預言者ナタンがダビデのもとに来たとき。】

3 神よ、わたしを憐れんでください／御慈しみをもって。深い御憐れみをもって／背きの罪をぬぐってください。4 わたしの咎をことごとく洗い／罪から清めてください。5 あなたに背いたことをわたしは知っています。わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。6 あなたに、あなたのみにはわたしは罪を犯し／御目に悪事と見られることをしました。あなたの言われることは正しく／あなたの裁きに誤りはありません。7 わたしは咎のうちに産み落とされ／母がわたしを身ごもったときも／わたしは罪のうちにあつたのです。

5. 文化の繁栄：文化活動の場としての宮廷

・ヘブライ文字の成立（ダビデ王時代との説もある）。

↓

文学活動の開始：「ダビデ台頭史」（サムエル上 16 章～下 5 章）、「ダビデ王位継承史」（サムエル下 9 章～列王記上 2 章）、あるいは族長物語。

・音楽：楽器（豎琴）の名手ダビデ
・学問の発展（書記学校の成立）→知恵文学・知恵思想、知者ソロモン

6. 経済の繁栄 → 古代イスラエルの絶頂（過去の理想化）

「栄華を極めたソロモン」（マタイ 6.29、ルカ 12.27）

・貿易が富をもたらす → 財宝伝説

南アラビアのシェバ（シバ）の女王がソロモンを訪問、栄華と知恵に驚嘆

7. <列王記上 10>

1 シェバの女王は主の御名によるソロモンの名声を聞き、難問をもって彼を試そうとしてやって来た。2 彼女は極めて大勢の随員を伴い、香料、非常に多くの金、宝石をらくだに積んでエルサレムに来た。ソロモンのところに来ると、彼女はあらかじめ考えておいたすべての質問を浴びせたが、3 ソロモンはそのすべてに解答を与えた。王に分らない事、答えられない事は何一つなかった。

8. 多民族国家イスラエル（←領土拡張）と民衆への重税・強制労働

<列王記上 5>

27 ソロモン王はイスラエル全国に労役を課した。そのために徴用された男子は三万人であった。28 王は彼らを一人ずつ一か月交替でレバノンに送った。すなわち、一か月はレバノンに、二か月は自分の家にとどまるようにした。この労役の監督はアドニラムであった。

9. 寄留者への配慮

<レビ記> 23:22 畑から穀物を刈り取るときは、その畑の隅まで刈り尽くしてはならない。収穫後の落ち穂を拾い集めてはならない。貧しい者や寄留者のために残しておきなさい。わたしはあなたたちの神、主である。

<出エジプト> 23:9 あなたは寄留者を虐げてはならない。あなたたちは寄留者の気持を知っている。あなたたちは、エジプトの国で寄留者であったからである。

(2) 王国期の宗教

10. 連合イスラエルからイスラエル王国 (ダビデ=ソロモン王朝) へ
部族連合と反王権主義の伝統への大きな変更
11. 王国形成は宗教の統合でもあった。
 - ・ 地方聖所からエルサレムの神殿
 - ・ 神殿を中心とする宗教秩序
 - ・ 王権の正当化 → 政治神学の成立
12. 神殿とは何か。
 - ・ 天と地の接点、宇宙の中心、神の臨在する場所：ヒエロファニーとコスモスの生成
「聖なる山、あなたのいますところ」(詩編 43.3)、「会見の幕屋」
↓
都市、神殿 (聖所、至聖所)
 - ・ 儀礼の場→政治と生活の中心
儀礼：犠牲を捧げる、王の即位
祭り：
・ 偶像禁止

13.<詩編 132 >

11 主はダビデに誓われました。それはまこと。思い返されることはありません。「あなたのもうけた子らの中から／王座を継ぐ者を定める。12 あなたの子らがわたしの契約と／わたしが教える定めを守るなら／彼らの子らも、永遠に／あなたの王座につく者となる。」

132:13 主はシオンを選び／そこに住むことを定められました。14 「これは永遠にわたしの憩いの地。ここに住むことをわたしは定める。15 シオンの食糧を豊かに祝福し／乏しい者に飽きるほどのパンを与えよう。16 祭司らには、救いを衣としてまとわせる。わたしの慈しみに生きる人は／喜びの叫びを高くあげるであろう。17 ダビデのために一つの角をそこに芽生えさせる。わたしが油を注いだ者のために一つの灯を備える。18 彼の敵には、恥を衣としてまとわせる。王冠はダビデの上に花開くであろう。」

<参考文献>

1. 月本明男・小林稔編 『聖書の風土・歴史・社会』(現代聖書講座第1巻)
日本キリスト教団出版局。
2. R.E.クレメンツ 『旧約聖書における神の臨在思想』教文館。
3. 並木浩一 『旧約聖書における文化と人間』教文館。
4. 芦名定道 『宗教学のエッセンス——宗教・呪術・科学』北樹出版。
5. 石田友雄 『ユダヤ教』山川出版社。
6. 山我哲雄 『聖書時代史旧約編』岩波現代文庫。
7. 市川裕 『ユダヤ教の歴史』山川出版社。